

2025年2月14日

各位

会社名 株式会社ガーラ
代表者名 代表取締役グループCEO キム ヒョンス
(コード: 4777、スタンダード市場)
問合せ先 取締役CFO 岡本 到
(TEL. 03-6822-6669)

2024年12月期連結業績と前期実績との差異及び個別業績と前期実績との差異、並びに連結決算における特別損失、個別決算における営業外収益、特別利益及び特別損失の発生に関するお知らせ

当社は、2024年12月期（2024年1月1日～2024年12月31日）連結業績と前期実績との差異及び個別業績と前期実績との差異、並びに連結決算における特別損失（固定資産除却損、減損損失及び課徴金引当金繰入額）個別決算における営業外収益（貸倒引当金戻入額）、特別利益（新株予約権戻入益）及び特別損失（関係会社株式評価損、関係会社事業損失引当金繰入額及び課徴金引当金繰入額）の発生に関して下記のとおりお知らせいたします。なお、当社は2024年12月期の業績予想は公表しておりません。

記

1. 2024年12月期連結業績と前期実績との差異

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前期実績 (A) 2023年12月期	1,497	△296	△262	△230	△9.20
当期実績 (B) 2024年12月期	2,350	△447	△358	△907	△33.70
増減額 (B-A)	852	△151	△95	△678	—
増減率 (%)	—	—	—	—	—

(※) 決算期変更により、前期は2023年4月1日から2023年12月31日までの9ヶ月決算となっております。このため、増減額及び対前期増減率については記載しておりません。

なお、当期は2024年1月1日から2024年12月31日までの12ヶ月決算であります。

2. 2024年12月期個別業績と前期実績との差異

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前期実績 (A) 2023年12月期	35	△180	△161	△218	14.85
当期実績 (B) 2024年12月期	54	△482	△423	△1,685	△62.55
増減額 (B-A)	19	△301	△261	△1,467	—
増減率 (%)	—	—	—	—	—

(※) 決算期変更により増減額及び対前期増減率については記載しておりません。

3. 差異が生じた理由

(1) 連結業績

2024年12月期の連結業績は、連結売上高2,350百万円となり、増収となりました。これは、主にHTML5ゲーム「Flyff Universe (フリフユニバース)」の売上高が前期と比較して増加したことによります。HTML5ゲーム「Flyff Universe (フリフユニバース)」の売上高の主な増加理由は、決算期変更による影響により増加いたしました。

営業利益及び経常利益につきましては、売上高増加に伴う売上総利益の増加があった他、主に当期に決算期変更による影響により給与手当の増加及び、2024年11月12日に訂正報告書を提出したことに伴い決算訂正関連費用252百万円を計上したことにより販売費及び一般管理費が増加したこと、また、営業外収益として、主に当期に受取利息37百万円、暗号資産売却益9百万円、暗号資産評価益6百万円、為替差益39百万円、受取出向料12百万円を計上したこと、営業外費用として、主に当期に支払利息18百万円を計上したことを理由として前期実績と比較して差異が生じました。

親会社株主に帰属する当期純利益につきましては、主に当期に新株予約権戻入益24百万円、減損損失401百万円、課徴金引当金繰入額64百万円を計上したことを理由として前期実績と比較して差異が生じました。

これらの結果、営業損失447百万円（前期は営業損失296百万円）、経常損失358百万円（前期は経常損失262百万円）、親会社株主に帰属する当期純損失907百万円（前期は親会社株主に帰属する当期純損失230百万円）となりました。

(2) 個別業績

2024年12月期の個別業績は、売上高54百万円となり増収となりました。これは、主に韓国不動産購入に伴う家賃収入による影響により前期と比較して増加いたしました。

また、営業利益及び経常利益につきましては、主に当期に決算訂正関連費用248百万円を計上したことによる販売費及び一般管理費の増加、また、営業外収益として、主に前期に為替差益15百万円の計上、当期に為替差益41百万円、貸倒引当金戻入益40百万円、受取出向料12百万円を計上したことを理由として前期実績と比較して差異が生じました。

当期純利益につきましては、主に当期に新株予約権戻入益24百万円を特別利益として計上したこと、前期に前渡金評価損55百万円、当期に係会社株式評価損871百万円、関係会社事業損失引当金繰入額328百万円、上場契約違約金20百万円を特別損失として計上したことを理由として前期実績と比較して差異が生じました。

これらの結果、営業損失482百万円（前期は営業損失180百万円）、経常損失423百万円（前期は経常損失161百万円）、当期純損失1,685百万円（前期は当期純損失217百万円）となりました。

4. 連結決算における特別損失の発生について

(1) 特別損失（固定資産除却損）

今後の使用が見込めなくなった固定資産の除却に伴い、固定資産除却損24百万円を計上するものであります。

(2) 特別損失（減損損失）

連結子会社の回収可能性の見込めないのれん、収益性の見込めないプロジェクトに係る建設仮勘定及び一部の管理業務に係る工具、器具及び備品について減損損失401百万円を計上するものであります。

(3) 特別損失（課徴金引当金繰入額）

過年度の訂正報告書の提出に伴い、証券取引等監視委員会による課徴金納付命令の勧告に基づく支払見込額64百万円を計上するものであります。

5. 個別決算における営業外収益、特別利益、特別損失の発生について

(1) 営業外収益（貸倒引当金戻入益）

連結子会社に対する貸付金に関して貸倒引当金を計上しておりましたが、貸付金の一部の回収を受け

たことに伴い、貸倒引当金戻入額 40 百万円を計上するものであります。

(2) 特別利益（新株予約権戻入益）

失効となった新株予約権について新株予約権戻入益 24 百万円を計上するものであります。

(3) 特別損失（関係会社株式評価損）

関係会社株式の実質価額を算定し、帳簿価額と実質価額を比較し、実質価額が著しく下落した関係会社株式について、実質価額まで評価減し、関係会社株式評価損 871 百万円として計上するものであります。

(4) 特別損失（関係会社事業損失引当金繰入額）

関係会社の事業の損失に備えるため、関係会社に対する出資金及び貸付金等債権を超えて当社が負担することとなる損失見込額の繰入額として関係会社事業損失引当金繰入額 328 百万円を計上するものであります。

(5) 特別損失（課徴金引当金繰入額）

過年度の訂正報告書の提出に伴い、証券取引等監視委員会による課徴金納付命令の勧告に基づく支払見込額 64 百万円を計上するものであります。

5. 2025 年 12 月期の業績見込みについて

当社グループは、スマートフォンアプリ事業における、アプリの開発やダウンロード配信が予定どおりに進まない可能性や、ダウンロード配信開始後のアプリによる課金収入の予測が極めて困難であり、また、オンラインゲーム事業における、既存タイトルのバージョンアップによる業績予想が非常に難しく、HTML5 ゲーム事業における開発が予定どおりに進まない可能性や課金収入の予測も極めて困難であります。さらに、新規事業であるクラウド関連事業、ツリーハウスリゾート事業、Meta Campus 事業及び VFX 事業については、当該事業を取り巻く環境の変化等により損益が大きく変動する可能性が高く、適正な業績予想が極めて困難であることから、業績予測の公表を差し控えさせていただきます。

以 上